

## 〇21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきました。午前中の質問で黒岩議員が、要らんことじゃなくっていいことを言ったので、みんな机の上にパソコンが並んでいます。ただでさえ執行部に立ち向かうのに、これで鬼に金棒状態に立ち向かわなければならない。そういう中で一般質問を開始させていただきます。（全般モニター使用）

これは一番最初の出だしの画像ですけれども、先月の11月14日ですか、（「14日」と呼ぶ者あり）14日、武雄市中に虹が発生しました。本当きれいで、もう武雄市は虹のまち、何かその次の次の日の物産まつりとかフェイスブック学会を歓迎するような虹でした。本当すばらしい虹だったと思います。

ただ、次の画像行きますけど、僕のはびかびかびかとなりませんので。これは終わりのほうですね、この2点について大まかに質問させていただきます。

こうやって、さっき言いましたフェイスブック学会、そして物産まつり、その前の日にこうやって虹が出た。本当にさい先がいいということで、このフェイスブック学会も物すごく盛況、さらに物産まつりですね、物産まつりも物すごく盛況、12番議員さんもおっしゃいました、6万人以上の方が武雄市に訪れたと。私も物産まつり会場にいましたけど、本当に今までにないような人出で、大成功だったと思います。（発言する者あり）はい、ありがとうございます。

6万人以上と言いましたけど、私自身は、その数自体も物すごく感激しましたけれども、もう1つあって、その6万人の中によその自治体の多くの職員が来ていた。そして、議員もいっぱい来ていたんですね。そっちのほうがもう物すごくびっくりしました。

私は、ブースにいて、バッジつけた人が結構来られるんですね。もうよその議員さんばかりです。そういうふうに、よその議員が注目して来ております。ここからが前の議員さんとかぶるんですね。同じ画像なんですすよ。これ前の日に用意していたので、もう差しかえられないで、これ私が自分で撮ったやつですから、これとか、これ1週間後とか何日かごとに張りかえないと、もうこの中じゃ張れないですから。（「そうです」と呼ぶ者あり）これは次の週、もうこんなばらいになっています。

先ほど、これも一緒だったんですね、もう偶然です。何で一緒なんだろうと。これは、黒岩議員さんはさっき11月でしたけど、僕のは10月からのやつを載せています。これはもう冗談抜きで、事務局のホワイトボード、もう1つ必要ですね。議会の行事を書くボード、隣に視察のところを書くボード、本当に必要だ。これは、この質問はボードの予算要求の質問じゃありませんから、本当にこういうふう書き切れないぐらいいっぱい来ている。図書館、図書館は今度なりますよね。また、いろんなことで、図書館がCCCに変わったら、これでまた視察が、これね、倍増します。

〔市長「いんにゃ、もっと来るよ」〕

はい。多分、議長の名刺ももう倍つくらないと足りないぐらい来られると思います。

先月、物産まつりの前後して神奈川県の小田原市の議員団が来たんですね。神奈川県小田原市は小田原競輪がありますので、以前からその前議長さん、議長さんとは競輪議長会で特別仲がよくて、武雄市に視察に来られて、市長さんにお会いして、その後にもたまたま夜、ちょっと食事のときも一緒に来てくれということで行ってまいりました。そういうときに、ちょっと挨拶してくれと言われたんですね、その食事の前に。そしたら、「きょうの視察いかがでした」と言ったら、もうみんなが目をびかびかびかびかとさせるわけですよ。よかったと、もう感激したとか、何かコンサートの終わった後みたいな感じで、そういうふうみんな刺激を受けて、その議長さんがおっしゃったんですけれども、刺激のシャワーを受け過ぎたと、これは一般質問がいっぱい出るばいということで、実際出ているそうなんですけど、実際パソコンで武雄市、一般質問と検索すると、普通は我々この武雄市の議員の要綱がばーっと出るんですね。ところが、よその議員の質問のやつもいっぱい出るんですよ。それぐらい武雄はいろんなところで叫ばれている。

何でこがん話ば一般質問の前にするかというたら、武雄市はローカルガバメントのもうオピニオンリーダーです、これはもう間違いないと思います。そのオピニオンリーダーの武雄市、その武雄市が今度、これから質問のほうなんですけれども、動いてほしいことがある。これは昨日出た新幹線、新幹線に関して質問、要望をしていきたいと思います。

新幹線、新幹線自体は市の事業じゃありません。国の事業です。国政選挙の真っ最中ですから言葉を選ばなきゃいけないんですけれども、前回の議会だったですかね、共産党の江原さんが、私の辞任について、もう共産党さんの新聞をびらびらびらっと、もううそばかりのやつをされたりして、そういうふうにならないように私も気をつけて質問したいと思います。

それに、昨日の佐賀新聞のニュースとか本当、いや、新聞にしても、怖いですね、ペーパーは。ペーパーは怖いです。

そういう中でも、この武雄市、オピニオンリーダーとしての武雄市、全国から自治体として注目を受けている武雄市で動いていただきたいこと、それは新幹線の、先ほど言いました。

最初にここで質問ですけれども、まず今、今までつらつら、図書館とか、図書館もちょっと言いましたし、きのうのペーパーのことも言いました。これに対する所見が1つと、もう1つは、新幹線の財源スキームが現在どうなっているのかということと、細密スケジュールがどうなって、現時点での部分の、これは担当課にお伺いしたいと思います。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

(モニター使用) ちょっと佐賀新聞がどうこうという前に、ちょっとモニターを変えてほしいんですが、さっき黒岩議員から御指摘がありましたので、これを踏まえてモニター用につくったのがこれなんですね。旧がこういうふうになっています。今、もうこれは御存じの方も多いと思うんですけども、今度新しくしたときに、旧蘭学館にある部分のものについては図書館にすると、今の旧蘭学館の部分が蘭学・企画展示室にするということで、メディアホール、余り使われていないメディアホールも含めて広くしていこうと思っているんですね。

これもさっきお見せしたんですけども、もともとこれ武雄の蘭学館は、このようにいっぱいいっぱいしようと思っていたんですけど、あのスペースじゃやっぱり無理なんです。で、どうなっているかという、もうこれぐらいしかやっぱりできないんですね、できない。だから、これは最初の設計ミスです。しかも、ここのこの部分ですよ、これは変えられないんですよ。ですので、これも基本的にアウト、こういうふうには稼働できない、移動できないような構図になっているわけですね。しかも、入り口のところがもう黒い壁みたいになっていて、入るのを拒むかのようなものになっていて、こんな明るければいいんですけど、もう全然暗いということになっているんです。

今度変えようと思ったのは、これはきのうの吉川議員にもお示したんですけども、企画展示室をこのような形にしていきたいと。これは先ほど申し上げたとおり、蘭学・企画展示室、仮称ですけども、このようにすれば入りやすいし、見やすいじゃないですか。しかもメディアホールも一体にしますので、今までの見せたくても見せられなかったものまで見せることができると、こういうふうにはできるというふうになります。

ですので、ちょっと佐賀新聞におかれては、書かれた中身はいいんですよ、内容は。これについて私がどうこう言うつもりは全くありません。しかし、あの見出しはもう絶対にいけない。蘭学館閉鎖と書かれているんですよ、閉鎖って。これ閉鎖ですか、皆さん、閉鎖ですか。（「違う。閉鎖じゃなか」と呼ぶ者あり）ですので——すみません、か弱い発言ありがとうございます。ですので、私は佐賀新聞がこれは事実を率直に認めて閉鎖ということを撤回しない限り、閉鎖ということを撤回して修正の文書を書いてくださらない限り、我々はもう佐賀新聞はとりません。

しかも、きのう横尾さんから私は9時過ぎまで取材を受けましたよ、電話で、疲れ果てているときに。しかも閉鎖と書かれるんですよ、閉鎖って。宮本栄八議員みたいなわけのわからん人は何を言ってもいいですよ。閉鎖じゃないです。ですので、一切の佐賀新聞の取材にも応じません。それは私のみならず、職員も同じ話です。ですので、修正があって、佐賀新聞に、目立たないところはだめですよ。目立つところにちゃんと、これは非を認め書かない限り、もう私はこの対応を続けたいと思います。もとより私も個人的にはもう佐賀新聞はとりません。

ですので、それね、やっぱり公器というのは、それだけの影響力があるんですよ、本当に。

きょうも問い合わせは山のようにありますよ。本当に閉鎖するんですかって。しかも、僕は人を批判することはしませんけど、庭木さんも情けない。佐賀新聞に書かれていましたけれども、あの人が教育長だったときに、この浦郷さんは教育長で蘭学館をこうしよう、ああしよう結構おっしゃるんですよ。古賀部長もそうです。しょうて。しかし、僕は少なくとも彼と1年間仕事を一緒にしましたが、一言も蘭学館についてこういうふうにしようというのはありませんでしたよ。ないにもかかわらず、評論家のように、あのよう到我々がやろうとしていることについて残すものだと思っていたと、それは思いは自由なんだけれども、あそこまで言う必要は僕はないと思いますよ。

ですので、どっちにしてもね、ただ、方針を変更したというのは、そうだと思います。方針は、それは率直に認めます。それは佐賀新聞さんの言っているとおりで。だから、記事の中身についてはどうこう言うつもりは全くありません。ですが、この件に関して言うと、やっぱり報道のあり方についてはきちんとしてしかるべきだと思います。もし反論があられるんだったら、ぜひ紙面に書いてほしいと思います。こそこそしないで。もう僕は1回社説も批判しましたがね、ナシのつぶてですよ、ナシのつぶて。これね、僕が批判をすると必ず再批判も来ます、いろんところで再批判が来ます。それがいいんですよ。だけど、僕らが投げたのに対して全くないということは、今まで佐賀新聞だけです。ですので、これも重く受けとめてほしい、このように思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

北川営業部理事

#### ○北川営業部理事〔登壇〕

新幹線の現在の状況並びに今後のスケジュール、それから現在のスキームですね、これについての御質問だと思いますが、現状につきましては、事業の進捗につきましては、ことしの6月29日に事業認可が新たに長崎までの延長を含めてあったわけですがけれども、20年3月26日に事業認可をされて以来、これまで武雄―諫早間については事業が進められてまいりました。この事業の進捗率については、現在28%程度ということで聞いております。

今後のスケジュールですが、武雄―諫早間につきましては、25年ぐらいまでに用地交渉を終えて、それから土木工事に入っていくということで、平成32年まで工事を行い、33年に試運転、あるいは開業の監査等を受けて34年の開業ということですよ。

それから、追加になりました諫早―長崎間につきましては、本年度から事業説明を始めまして、平成24年、25年で基準点、中心測量等を行いまして用地交渉に入っていくと。これについても、平成32年まで工事を行いまして、33年に検査、試験運転、それから、34年の合同の同時開通という計画でございます。

それから、事業のスキームでございます。

これにつきましては、現在、総事業費で、今、武雄―長崎間が5,000億円というふうなこ

とで言われておりますが、このうち3分の2を国が負担をし、3分の1を県が負担をするというふうなことになっております。この県の3分の1の負担の中に、用途区域に係る部分が市の負担ということで10分の1来るといような基本スキームになっております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

まず最初に、市長からも、やっぱりペーパーは怖いですね。いろんなところに影響を及ぼします。いろんなこともありますけれども、これから先、壇上で言いました、武雄市は注目されているので、いろんな事業を展開して行って、さらによそよりも一歩先というのをこれから頑張ってやっていっていただきたいと思います。

先ほどの新幹線のスキームですけれども、新幹線長崎ルート、すみません、画像が撮れなくてこれで。これ、きのう3番上田議員が言われました。こういうふうにならば新幹線が来たら、こうやって来て、こうやって行くのが一番ベストじゃないかという話まで出ました。なかなか私ちょっと画像をつくられないので、アップさせてなかなか見えないんですけども、そういう話も出ました。これは整備新幹線ですね。

ただですね、もう前から言っているんですけども、これ、グーグルでちょっと撮っておった。私は何で一回高速道路ば出んぎいかなかなと思うて不思議だったんですよ。これ高速ですね。高速、ここがインターチェンジですね。新鳥栖駅でこけあったとですね。インターのすぐそばかなと思ったら、やっぱりこう来て、こう来んぎいかんとですね、高速道路ば行くには。ちょっと気づきませんでした。こうですね。だから、高速道路沿いにこう行くぎよかと私も思いよったとばってん、やっぱり1回ここまで来てからこがん行かんぎいかんとですね。ちょっと私も認識不足だったんですけども、そういうふうな話なんですけれども。

これは、鳥栖－武雄温泉間をフル規格で整備すれば佐賀県の負担はさらに750億円の上乗せ、これは佐賀県知事がおっしゃっています。フル規格でやったらですね。この750億円とはどのところをおっしゃっているのか、私はよくわからないんですけども、とりあえずこういう発言をされています。

県負担は、先ほど言われました。平成9年の分で、工事費の3分の1を県負担、その中の交付税措置が45%ありますので、18.3%が実質の県の負担となります。これは今までのとを変えたやつですので、これはよかです、すみません。

東海道新幹線、山陽新幹線、この2つはもう地元負担はなかですね。もう国鉄が全部つくりました。東北新幹線、上越新幹線、これはJR、そして国、国策でつくったわけですね。地元負担なしです。財政投融资でつくりました。ここはそういうふうにつくったと。国鉄の自己資金、国の財政投融资でつくったと。そんな中で、何でそういうふうな、大都市と大都市、例えば新潟も大都市かもしれませぬ、そういうところは国費で全部つくって、我々のと

ころは地元負担ば出せて、これは武雄市に当てはむっぎどういうことかと、武雄と朝日は市の金でつくります。そこから先、若木につなげたかぎ地元の金ば出しなさいて言われよっごたあ感じなんですね。やっぱり同じように国策としてやっていただきたい。

これはどうということかという、ちょっと話が飛びますけど、武雄が一番景気のよかったとき、前言うたですかね。武雄が一番景気のよかったとき、昼の仕事も忙しい、夜のまちもいっぱい、これは高速道路ができておったときなんですね。高速道路ができているときは物すごく武雄は景気がよかった。もちろんその周辺よかった。今、新政権に期待するのは、外交もあります、いろんなありますけど、経済対策、地方の経済対策もあります。経済対策の中で、ぜひ地方のこういう整備新幹線の部分も国費でもうやりますと、経済対策のために。なおかつ、これは何でできるかという、長野のときだけこれの今までのスキームを無視して財政投融资でつくっているんですね、長野のときだけ例外で。同じように、例えば、前の自民党の麻生政権のとき、その前の政権のときも財政出動で7兆円とか11兆円出しているんですね、財政出動で。そのときと同じようにこっちのほうもやっていただければ、地方負担なしに経済の、何というですか、流通のかなめになる新幹線が端々まで行くわけですよ。そういう声をぜひ、オピニオンリーダーである、ローカルガバメントのオピニオンリーダーの武雄市が先に手を挙げていただきたいと。負担があるとどうしても、例えば知事も二の足を踏む。ぜひ次の政権にこのスキームを見直してくれというのを武雄から手を挙げていただきたい。

それで、議会も末藤議員さんが新幹線の特別委員長です。ふだんは消防団長で火ば消しよらすばってんが、今度はもうそれをたきつくごと、末藤さんも頑張っていただけだと思いますので、ぜひその辺の御所見を市長にお伺いし、ぜひローカルガバメントのリーダーとしてさらにこういうのをやっていただきたい。それで、最終的に景気を上げていただきたい、その辺の所見をお伺いします。

#### ○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

まあ、今の新幹線は、あれは鈍感線ですもんね、今のまま行けば。あれは新幹線じゃありませんよ。もう在来線の延長です。

ですので、きのうもお答えしましたけど、上田議員のときにお答えしましたけれど、もしこれがフル規格になった場合に、一番じゃ便益、利益を供するのというのは佐賀県外の人なんですよ。ですので、これを地元負担というのは、そもそももう自己矛盾も甚だしいんですね。幸いにして――選挙の話じゃないですよ。今村雅弘さんていらっしゃるんですよ。されるかされないか知りませんが、この人が国会議員で何をおっしゃっているかという、要するにフル規格でもうやろうと、私聞きましたよ、そのときに。これ国費、うち、県も市

も貧乏だから、それ出せませんよと言ったら、国費で頑張りますとおっしゃいましたもん、今村雅弘さんという人が。ですので、今度政権がかわったときに、先ほど牟田前議長さんからあったように、これは真っ先に行きます。言ったことは実行してください、言ったことを実行しないのは民主党と言いますので、あなたは自由民主党だから頑張ってくださいと言いますよ。

ですので、ただ、そうは言っても、じゃ国民がそれで納得するかと、これはまた別問題です。ですので、我々はまちづくりを頑張ってより多くの人たちに、これは嬉野とか諫早とか大村とか、全部そうですけれども、やっぱりそこは頑張りを、税金を払ってくださる国民の皆様方にも見せなきゃいけないということになりますので、そこはソフトの分は一生懸命頑張ります。今まで以上に頑張りますので、ぜひそれもあわせて、我々とすれば国に直談判をする必要があるだろうと思っております。そういった意味で、ぜひ末藤委員長さんを初めとして、議会でも決議をしていただくというのは大事だと思います。

それで、最も大事なものは、これをやるから県とか市の負担がふえるというのは、僕はこれは反対です。すぐ国土交通省とかそうやろうとするんですよ。僕も役人をやっていたからよくわかります、わけのわからない文書を書いて。それは絶対そうさせないようにチェックをする必要があるだろうと思っております。力強いお言葉だと思います。

#### ○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

#### ○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

新幹線、前、私ここで言いました。新幹線はいろんな役目をしています。2回目聞く人もいらっしゃるかもしれないですけども、昔、山口県山口市、安倍総裁が出ていらっしゃるところですね。あそこは山口県の中で一番大きな市だったんですね。ところが、新幹線が通るときに我々は要らないと言ったんですね。そこを避けて行ったんですよ。以前、その商工会のほうにお邪魔したところ、何で30年前、40年前の大人はここに引かんやったと、要らん要らんと言って、お金の無駄無駄と言って引かんやったと。おかげさんでこんなに商売、空き店舗がふえてがらがらになった。やっぱり先を見据えてやらんざいかん。山口市は今、山口県で2番目ですかね、それぐらい当時の人は先を見なかったというのはおかしいですけども、新幹線を軽んじておられたんですね。その結果がこうです。博多の明太子も地方の一お土産屋しかなかったのが全国区になった。仙台の牛タンもそうです。薩摩揚げも今、新幹線がつながってどんどんふえている。焼酎なんて以前は芋焼酎——私、酒屋ですからよく知っているんですけども、全国的に昔、芋焼酎というのは焼酎のシェアの何%しかなかったんですね。ほとんど麦焼酎で。今は麦焼酎を追い越したんですね、もう芋焼酎が。それぐらい新幹線というのは、もう5分とか20分しか短縮にならんとにそいしこお金をかけてという論理がありますけれども、それだけじゃない、いろんな側面を持っている。だから、ぜひこ

ういうのをフル規格でやっていただいて、武雄が手を挙げて、全国に先駆けて手を挙げてこういうふうなスキームの組みかえをお願いしていただきたいと思いますし、昨日市長が、これも上田議員さんの質問のときに言われましたかね、過去が大切、歴史を学ばないということをおっしゃいました。これは佐世保の議長さん、あそこも佐世保競輪があるので議長さんと仲よくさせていただいているんですけれども、佐世保には原子力船「むつ」を受け入れたときに、当時の与党から確約として新幹線を、西九州ルートを通すよと確約までいただいている。長崎県佐世保市が原子力船を迎え入れたというのは本当に重いことだと思います。それを、そういうふうな歴史があって今に続いて、急にお金がこうやって負担だというのを、ぜひ国に再度見直していただいてやっていただきたいと思います。

さっき言いました九州新幹線フル規格は佐世保市にもこれはプラスになる。そういうことで、ぜひ武雄市が先に動いて、もうどこよりも先に、武雄市が先に動いてやっていただきたいと思います。ぜひお願いしたいと思います。

では、次の質問に移ります。

ごめんなさい、これも写真撮ったんですけど、拡大したらこんなに、何かモザイクみたいになりました。これは498号で川古の大楠公園のやつです。今、498号のバイパスが通っているので、この看板がなかなか見られなくなるんですね。この移設をぜひお願いしたい。これは地元じゃなかなかできないですし、行政のほうで設置していただきました。この看板、今度の新498号、そういうふうなことで、移設とかというのはどういうふうに可能なのかというのを伺いたいと思います。

**○議長（杉原豊喜君）**

森営業部長

**○森営業部長〔登壇〕**

案内看板は、マイカー利用者を含めて来訪者の有効な手段の、道案内の有効な手段と考えております。

この看板につきましては、若木町振興協議会で計画されているいろんな整備とあわせて、また、基幹道路の498号の整備、進捗状況を見据えて設置場所を含めて対応していきたいというふうに思っております。

**○議長（杉原豊喜君）**

21番牟田議員

**○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕**

対応していただくということで感謝を申し上げます。

では、次。雪ですね、もう寒くなって、きょう朝、雪が屋根に積もっていました。うちは御存じのように若木です。若木の、これうちの前なんですけど、ちょっと降っただけでこんなになっちゃうんですね。うちの前です。（「けさじゃなかろう」と呼ぶ者あり）けさじゃ



ないですよ。去年のやつです。けさじゃないです。うちの、去年降ったやつですね。もうこんな状態で出られないんですね。ところが、この上に498号、今の498号が通っているところ、通っているんですよ、もう解けて。これもうちですね、もうこんな感じで、私は四駆ですから、ちょっと行けたんですけども。これはちょうどうちの前の道路です。

ぜひ、ここで伺いたいのは、もうすぐ雪、毎年のようにこうやって積もります。地域によくですね、例えば若木町だと中山地区とか御所地区とか川内地区、塩化カルシウムをもう前もってやっていらっしゃるんですね、塩化カルシウムを。降りそうなとき、降ったときにそれをまいてこういうふうなことにならないんですね、例えば、やっていただきたいのは、山間地はもちろん必要ですけども、普通の平地のところ、武雄町でも同じだと思うんですよ。山内町でも北方町でも平地のところでも、メイン道路は解けているけど、自分のうちの前からのところの細い道は解けていないというのが結構あるので、ぜひ要望があった地区からは塩化カルシウムを補給して、例えば前もって降るときはそこから、区長さんの許可をもらってまくことができるとか、例えば議長さんのところも、私、雪の日に何回かお邪魔したんですけども、本当大変だと思います。メインのところまで行けるんですけど、議長さんのところまで行けないんですね。そういうふうに、もし例えば市が許可するなら、公民館にそうやって塩化カルシウムを置いて前もって、降るならその地域の住民、自分の家の前が欲しいというなら先にまくことができるとか、そういうシステムをとってもらえないか。これは田舎に住んでいると、年に何回かです、年に何回かですけども、本当にメインの道路は通っているけど出られないというのが物すごく多いです。（発言する者あり）はい。ぜひそういうふうなシステムにできないものか。これは実際、去年ですね、私の知合いが通れるって思っていたけど、そこが通れなくてひっくり返ったというのもあります。この部分をお願いできないかというのが1点目。

それともう1つが、県道とか国道とかあります。そういうときに、市の道路だけじゃなくて、県道、国道のほうも大丈夫なのかというふうな、きちんとどこどこ地区はいつも雪が降るからというのを市から連絡を、きちっと連携をとり合ってやっていただきたい、この2点をちょっと要望したい、要望お願い、伺いたいと思います。よろしく申し上げます。

**○議長（杉原豊喜君）**

石橋まちづくり部長

**○石橋まちづくり部長〔登壇〕**

寒くなってきました、また雪の心配をする時期になりましたけれども、凍結時の道路の対応につきましては、現在、要望してもらっている箇所についてはあらかじめ塩化カルシウムを置いておって、地域の方で対応をしていただいているところでございます。したがって、もし市道に限らず生活道路等もいいと思いますので、要望していただければ事前に塩化カルシウムを配付いたしますので、よろしく伺いたいと思います。

また、国県道につきましては、大体が雪が降ったときには業者対応をされていると聞き及んでおりますので、それも現場に、橋のところとか、あるいは峠のところに置いてあると思います。それを業者さんがまいていらっしゃるということで、一応国県道については対応がなされているんじゃないかなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございます。要望があれば、そうやって出していただけると、本当にもらえると思っている区長さんは少ないと思うんですよ、山間部しかもらえないというふうな。今、答弁でいろんなところから要望が出て、本当に周辺部でもちょっと雪が降るところは暮らしやすくなると思います。

それと、国県道を業者さんをお願いしているということだったんですけども、確かに業者さんをお願いされているんですけども、さらに、さっき言ったようにもう前もって、今度危ないからあそこのところ注意しといてよというふうな声かけのほうをお願いしたいと思います。

では、今のもよかったです。次に行きたいと思います。

これは湯煙、そうです、別府でよく鉄輪温泉、やっぱり通りに湯煙がこう出ているとすごい雰囲気があるんですね。湯煙。武雄温泉はちょっと湯煙が寂しいなということで、きのう吉川議員さんの質問のときに給湯事業があって、楼門のほうまで、向こうまで引っ張ってきたいというふうな話があったと思います。そういうときに、ぜひ、もしよければ何らかの仕掛けをして、湯煙が出るような仕掛けが給湯のほうでできればやっていただきたいし、その中に例えばプラスして、温泉旅館の人は温泉旅館の予算で硫黄をまぜるとか、市はちゃんと給湯を引っ張ってここで自然に湯気が出ている。やっぱり何か、よくこれはですね、いろんな方に言われるんですね。何か湯煙がやっぱり温泉は欲しかねて、欲しかねて、武雄はなかもんねと、何かそういうふうな仕掛けが、通りということでできないか、ぜひ給湯事業で引っ張るときに支管を1本上に持って行ってすとか、何かそういうふうな手だてができないか、そういう仕掛けができないか。

これはやっぱり前から言われていたんですね。何か仕掛けができませんかと。これは武雄の市役所とか執行部だけじゃなくて、旅館組合もそうだと思います。旅館組合も同じように協働して、産官学で協働してそういう事業をやれないか、武雄市がやるんじゃないかと協力して、向こうも我々もこれだけすっけんがとか、そういうふうなことでこういうふうな湯煙事業みたいなのができないものか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

賛成。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ですね。やっぱりそうやっていただけるとあれなんですけど、やっぱり何か仕掛けが欲しいなというのはいろんな方からも言われているので、ぜひ、賛成は賛成でもいろんなやり方があると思います。例えば、主体は旅館組合でやってくださいと、市はそれにちょっとアドバイス、補助する程度、もしくは逆かもしれないです。そういうふうな、ぜひこれは——本当は、自分は旅館組合から頼まれたわけでも何でもなかばってん、そういう要望が本当は出んげいかんですね、早う。

〔市長「そうです」〕

こがんことも何十年で言われとおとやっけんが。そいけん、ぜひそういうところを鑑みて、再度、「賛成です」の次の言葉をお待ちしています。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

そうなんですよね。これ行政が主導してやるような話じゃないので、おっしゃるとおり、旅館組合さんがこれをやりたいということであれば、硫黄をまぜていいのかどうかよくわからないんですけど、これ、この白い、今出ているのというのは、硫黄分が結構入っているんですよね、温度というより。ですので、白くする工夫が必要で、武雄温泉の場合はあれなんですよ、僕はこれよかったと思うんですけど、硫黄分が少ない、で、においも少ないじゃないですか。ですので、もし硫黄を入れると、これにおいが、鉄輪も結構においしますもんね。発生するということにもなるので、それが温泉風情を醸し出すのか、臭いとなるのかはちょっと別にして、その仕掛けは必要だと思っています。

何かスカイツリーみたいにどーんとまず1個、やっぱり細々とやると、結局、ああやっぱり地方はこんなものだとなると思うんですけど、例えばこの管が引いてあるところに、さっきおっしゃたように、支管を入れてどーんと、もう四、五十メートル出たら、それは結構写真のスポットになるんですよ。その奥に例えば楼門が見れるとかっていうふうになると、そういうやっぱり仕掛けが、仕掛けといっても、もう大がかりな、何じゃこりゃっていうぐらいの、そして、もしだめだったらやめるというのが、やっぱり今まで地方が大体失敗していたのは、予定調和的に、例えば四、五カ所とかというふうにして、結局、大したことないというのが大体地方の失敗なんですよね。だけど、やっぱりここはみんながどぎもを抜くぐらいの、ごおっていうのができればいいなと。これ、旅館組合がぜひその要望書を出してほ

しいなというのは思います。技術的に多分できると思いますけどね。そういうふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

何か駆け足で質問をしているんですけど、本当に中途半端というのはだめですね。

〔市長「うん、だめ」〕

やっぱり話題になるような。きのう吉川議員の質問の答弁で、たまたまこうやって重なったんですけども、ぜひ旅館組合の方がもし見てらっしゃったら、そういうふうなチャンスです。チャンスとかそういう機会を利用してやっていただきたいと、これからはともに、やっぱり温泉地武雄ということで頑張っていたきたいと思うし、我々も勉強していきたいと、思います。

では次、平成24年度武雄市空き店舗活用事業募集要項、これは空き店舗事業というのを武雄市はやっています。その中で、店舗を開店する際の店舗改装費の3分の2を補助します、補助金の上限は100万円、これはいい事業ですよ。店舗を借りて100万円出るわけですから、上限ですけども、出るわけです。物すごくいい事業だと思います。ところが、場所が武雄町の温泉通りと宮野町、これだけにもう限定されるんですね。限定されるんですね。やっぱり限定されるよりも、これちゃんぽんサミットです。これちょっと話の違うごたあ感じばってん、ちゃんぽんサミットがありました。武雄見えています。例えば、同じように、このちゃんぽんサミットが武雄であったと、北方のちゃんぽん街道、おいも開店したかて、北方の通りに。ばってんが、この空き店舗事業は宮野町と温泉通りにしか使われんわけですね。そこだけすばってん、このちゃんぽんサミットのあって、やっぱり北方のあそこに出したかというてもこれは使えん。例えば山内町のそういう通りに空き店舗があって、借りてしたかというても使われん、もう武雄の宮野町、温泉通り限定されている。

やっぱりそういうふういろんなことがあっている中で、やっぱり機会均等にそういうふうに出したいというところもあると思うんですね。温泉通りにちょうど出したかった人はこれでもうびしゃい合うけんがよかですけども、じゃなか人は、武内町の梅ノ原のところに通したいと、多々良につくりたいと言うてもだめ。いろんな、朝日の高橋通したかという人もこれは使われん。やっぱりですね、いろんな人たちが、さっき言ったように、武雄は注目されているから、いろんなとで来たいという中で限定されているこの空き店舗事業、さっき言ったちゃんぽんサミットは一つの例です。せっかく北方につくりたかけど使われん。ぜひこういう空き店舗事業というのは注目される武雄市の中で使える事業、そして、先ほど23番議員の質問の中のいろんなシェアハウスにしても何にしても、いろんなことができると思います。ぜひこの点に関していろんなところでも使えるような空き店舗対策事業ができるかど

うか、これをお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、もうそのとおりだと思います。ただね、ちょっと制度を言えば、さっき副市長から教えてもらったんですが、空き店舗の場合に、お金を出すと言ったときは、中心市街地活性化法に基づく、なったときは、県も出しているんですよ。県も出して市も出している、3分の1ずつ出しているんですね。したがって、このエリア以外、武雄市でいうと宮野町と温泉通りですよ。それ以外になると、県の補助は来ないんですよ。ですが、考えてみたときに、じゃ、その分、市が出せばいいということは思いますので、ちょっと具体的な制度設計に入りますよ。入って、ただし、どこでもいいということには多分ならないと思うんですよ。です。例えば先ほど話が出た北方町であれば、あそこのちゃんぼん街道であるとか、その奥のあそこの旧街道の部分であるとか、例えば山内町でいうと、あそこ、浦さんの家の近く、あそこ、あそこも宮野ですよ、宮野の街道の部分であるとか、という具体的なエリアがこれは絶対必要だと思います。そうじゃないと、納税者の人たちは絶対それは納得しませんので、そのエリアで空き店舗をきちんとやったださるとい部分については、これは一考の余地があると思います。検討をすると言ったらしいということになりますので、ちゃんとやりたいと思っています。

ですので、これ多くの方がきょうもまたごらんになられていますけれども、ぜひこういったエリアがいいよというのをどんどんやっぱり教えてほしいと思うんですよ。行政が、あるいは政治が勝手に決め打ちしていても、なかなかこれうまくいかないんですよ。そうじゃなくて、やっぱり自分はこれをここでやりたいとかいうのがあれば、それはぜひ教えてほしいなというふうに思います。対象は広げたいというふうに思います。その額とかスタート時期についてはちょっとしばらく時間をかしていただきたいと思いますが、いずれにしても、これは議会の予算事案になりますので、今度の議会で、3月議会ですね、3月議会で皆様方と御相談をしたいと、このように思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

単独でもそうやって頑張っていたら、本当に武雄市は注目されて来たいという方がやっぱりいっぱいいらっしゃるんですね。だから、そういう方々のプラスになるように、武雄市はこうやってくれるばいと、一つ成功したら、それがうわさと呼ばれ、さっきのシェアハウスと一緒にしれん、同じように相乗効果を呼びますし、先ほど県が3分の1、市が3分の1ということで、県の観光課なんですよけれども、たまたま県の観光課長は同級生なんですよ。

言ったんです、これ。「何とかならんや、県」て、「うん、難しかとばってん、武雄市さん動いておいたちば説得してくいろ」ということやったけんですね。私もぜひ再度行って、県のほうも何とかできるように頑張っていきたいと思います。力強いお言葉ありがとうございます。

では次、これは決算委員会するときにも言ったんですけれども、税の滞納の部分で、交通行政の中で言っていたのが、軽自動車の滞納件数というのが、平成12年から平成21年までの分なんですけれども、平成21年時点の軽自動車の滞納というのが254台、これ何で23年度ば出さんとか、24年度出ています、数字。でも、ここは完全に車検が切れている車なんです。23年度はまだ車検が来ていないからまだまだ、車検のとき払えばいいさというのがあるかもしれないですけれども、これはもう完全に車検が切れた台数、これは軽自動車だけです。普通自動車のほうもあると思います。これはどういうことかという、この分、税の滞納というのはわかりますけれども、万一この車の中から、武雄市に例えば254台走っているとしますよね、200台ぐらいが走っているとしますよね。走っていて、その車に接触された、ぶつけられた、ひかれたといったら、これは保険おりないんです。その人が資産を2億円とか3億円持っていたらいいですよ、1億円とか。でも、だめなんです。ひかれたらひかれ損になっちゃう可能性が大きい。そういうのが254台走っているかどうかというのも私確認していませんけれども、やっぱりそれだけいっていると。何台かは中古車屋さんとかなんとかで動いているかもしれないし、中古車屋さんも大体2年たてば車検はとられていますよね。これは軽自動車だけです。普通自動車も一応調べてくださいと言ったんですけれども、連絡がなかったので調べられなかったのかもしれないですけれども、これ逆もあるんです。完全に自分が悪くなくて、向こうからぶつけられても、こっちが車検を通過してなかったら、100・ゼロでもゼロ・100になっちゃう。ぜひこういうふうな、ただの納税じゃなくて、これは走る分ですから、ぜひこういう分で、この納税の分で強化できないものか、これはもうナンバープレートで住所とかなんともすぐできますので、それが走っているのかいないのかという、そういう調査をやって、きちんと納税というかして、車検をきちんと受けてなかったら受けていただくということでやっていただきたいと思います。これはもう21年度時点です。これですね、23年度まで行ったら1,300台、全部でなっているんです。これはもう完全に21年度までのをしているんですけれども、23年度まででいうと1,334台がなっている。その辺のところの、こういう納税、危ないから言っているわけで、市民の生命、財産にかかわる部分ですから言っているの、ぜひこの辺のところの今後のあり方をお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

御指摘のように、軽自動車税の滞納台数というのが実台数の合計で1,334台、そのうち車検が必要な自動車に滞納しているというのが1,111台ということでございます。

じゃ、そしたら車検が必要な車が無車検で走っているという実態についてはどのような方法で調査できるか研究したいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ぜひ実態調査をして、走っていたら本当に危ないですから、これはただの滞納とは違うと、動いていますから。ぜひそのところで、市民の生命、財産を守るという見地でこちらの部分はそういう調査をやっていただきたいと思います。

では、次の質問に移ります。

これ、カンボジアの一ノ瀬泰造さんのお墓です。カンボジアの知り合いから、何で道路交行政でこれかというんですけれども、これ道路なんですね。これは向こうの知り合いから送ってもらった画像です。道路。ここが「泰造」と書いてあるんですけれども、ここから向こうに行くと、アンコールワットから30分以内のところですよ。これは「泰造の墓へ」と書いてあるんですけれども、向こうの行った知り合いが、この道が異常に崩れていると、向こうは三輪車ですかね、三輪車が離合できないような感じで道端も崩れている、カンボジアですよ、これは。向こうに行っている人はそこに永住というか、住んでいるので、そしたら、向こうはちょっと物価が安いので、メイン道路から泰造さんのお墓まで行くのに多分二、三十万円でもう十分整備ができるだろうと、この道路の部分ができるだろうということです。いろんな方々が、これはネットであれするといろんな方々がここを訪れています。ただ、なかなか武雄というのはPRできないし、もちろんずっと泰造さんのことを知っていれば武雄というのは出てきますけれども、ぜひこのところを、200万円、300万円というなら話は別ですけれども、20万円とか30万円とか、そういう形で本当にできれば、このメイン道路から泰造への道、お墓までの道というのを整備できないものか。私の知り合いが行っているというのは土木関係者ですから、多分その金額で間違いないと思いますけれども、近年やっぱりアンコールワットというのは物すごくふえてきているらしいんですね、世界遺産に登録されてから。そこの通り道の部分ですから、物すごく、こういう感じで、ここですね、物すごく通る方が多いらしいです。ですから、そういうお金でできれば武雄のPRにもなりますし、今度いつか市長がシンガポールに行つてという、そのときに一緒に何かそういうふうな形でこういうのができないものか。これは武雄市出身というようなこともありますし、カンボジアが、その友人いわく最近国内旅行がふえてきたと。カンボジアの中、何かやっぱり中国からいろんな企業、中国から移転した企業がいっぱい来ているらしいんですね。地雷の心配ももうこの辺はもろくないということだったので、ぜひ、少ない金額できちんと調

査してできるのなら、そういうふうな武雄の出身の一ノ瀬泰造というビッグネーム、そして武雄というもののPR、カンボジアの近年のそういう国内旅行、アンコールワットの世界遺産への観光客に見せることができると、以上の観点から、そういうふうなことができないかというのを伺いたしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これね、公費では多分無理だと思うんですよ。というのは、納税者が自分たちの生活も困って、道路も自分たちの前のところどうなっているのに、ちょっとカンボジアでどうなのって、多分僕が一般の——僕も一般の納税者ですけれども、納税者からすると、それよりも武雄市の例えば東川登とか北方町のをやってほしい、若木もそうだと思うんですけど、多分同じ額だったら、額の大きさとか小ささじゃなくて、そういうふうに多分僕はなると思うんですよ。

行政ができるのは、そこに例えば一ノ瀬泰造さんと武雄のかかわりであるとか、カンボジアのかかわりを、そういう例えばカンボジア語とか英語とか中国語等でそこに掲示をする、展示をするということは、これは多分納税者は納得すると思うんですよ。ですが、そこに道路を引くというのは僕はちょっとどうかなというのは、ちょっと率直に市民目線を考えた場合には、それは思います。したがって、これね、これこそやっぱり実力ある議員さんの出番ですよ。牟田議員さん、あなたです。

ですので、これ募金とかやって、それで何か、我々がその調査を、そういったのは行政のほうはいいのかもしれませんが。そこはさすがに。その部分はできると思います。それで多分御支援というのはできるかもしれませんが、この道路の何とかというのは広くボランティアズムとかね、あるいは募金とかというのを生かしたほうがより市民が応援しようっていうふうになるし、受けたカンボジアの国民、僕も行ったことありますけれども、ああ、武雄市民がやってくださったんだっていうふうになるのかな。ちなみに、カンボジアにはタケオという町もありますので。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうなんですよね。東京都が尖閣諸島を買うといったときに、やっぱりいろんな話が出ました。その中で最終的には募金が、あれだけの募金が集まったと。（発言する者あり）はい。ぜひそういうような募金活動、関係、そして、どこからかそういう声を上げてできれば物すごくいいことだと思いますので、御協力をよろしくお願いします。

では、続きまして、教育行政のほうに移りたいと思います。



教育行政、これは、この画像は中学生の社会の教科書です。社会の教科書。ことし、もう選定が終わりました。来年から新しい教科書に移ります。選定の前にいろいろ言うと、またそういう、何というですか、圧力とかなってはいけません。選定後、また何年か後が変わるんですけれども、その点についてお伺いなんですけれども、これ、うちの子どものやつなんですけれども、ちょうど今近代史とかいろいろ習って、たまに見たりするんですよ。見たらびっくり——私はですよ、ほかの人は何ともないかもしれない、私はびっくりするんですね。例えば元寇、元寇は全部遠征軍という、元が遠征軍を日本に派遣したとなっていますね。

日本が外に出ていくと全部侵略と書いてあるんですよ。日本が外に出ていくときには侵略と書く、向こうが攻めてくるときには遠征軍と書いてある、何でって思うんですね。最初にぱっと見ただけでですよ。

それと、さらに何ページかばらばらって見ていくと、毛沢東さんとかいろんな写真が載っているんですね。孫文も載っているんですよ。その下に何と「孫文の生い立ちから調べてみましょう」と書いてあるわけですよ。日本のほかの偉人とかのものを「生い立ちから調べましょう」と書いてあるわけですよ。何で日本の教科書でって。例えば日本の聖徳太子を生い立ちから調べてみましょうとか、何とかとかわかりますよ。「孫文を生い立ちから調べてみましょう」とか書いてある、何でてやっぱり思うんですね。

それともう1つ、最近のやつをこうぺらぺらってめくってみると、ポツダム宣言のところですよ。日本軍、日本は当時ポツダム宣言を、これを全く無視して何とかて書いてあるわけですね。そいぎ、例えば何でわざわざ「全く無視した」とか形容詞をつけなきゃいけないのか。普通だったら、提出されたポツダム宣言を無視し、そういうような戦争が延びたと書くのはいいけど、形容詞にわざわざ、「日本はポツダム宣言を全く無視し」て、「全く」って何で入れなきゃいけないのとか、そういうふうな、もうざらざらっと見ただけでですよ。まだいっぱいあるんですね。

昨今いろんな、今ほど領土問題とかいろんな歴史のことに興味を持たれているときはあんまりないと思います、尖閣も含めて。これも聞いた話なんですけれども、例えば、メドヴェージェフ大統領が樺太に来たと、そのときに日本でデモが起きて、ロシアの国旗を燃やしたと。それを見たロシアは、日本大使を呼び出して、あの燃やしたやつ、画面に映ったやつを逮捕させろと、ロシアで駐ロシア大使を呼び出して逮捕させろと言ったと、それぐらい言われている。ところが日本は、ごっとい中国に燃やされよおですね。ところが、中国大使を一回でもそういうふう呼んで、画像に移っているから逮捕せろと言ったことがないわけです。もうそういうところが何か今の日本とか、いろんな事件が起きている日本の根底にあるような気がするんですね。

教育とは何か。教育とは、大辞林で調べてみたんですね、「他人に対して意図的な働きか

けを行うことによってその人を望ましい方向へ変化させる」と、広義には「人間形成に作用する全ての精神的な影響を言う」というのが教育、これは大辞林で引いたやつです。

中学校学習指導要領は、歴史分野、第1項目に「歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。」というのが中学校学習指導要領なんです。ところが、さっき言った教科書のやつは、あんまりいろいろ言うぎ、あんまりあり過ぎてちょっといろいろあつぎいかんけん、こいしこぐらいですけれども、本当に我が国の歴史に対して愛情を深め、国民としての自覚を持てるのか。持てんこともなかとですけれども、教科書を選定する際にどういうふうに、これは権限は、選定は国ですけれども、選ぶのは市町村の教育委員会、選ぶことはできます。ぜひその辺の選び方はどうなっているのかということをお伺いしたいと思います、まず最初に。

#### ○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

#### ○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）ちょっと話が長くなるかわかりませんが、今お話しいただいたのが採択——どこから言ったらいいですかね。

教科書を選ぶ際に、まず各学校、社会科担当の先生、ほかの教科はもちろんほかの教科ですが、何人か代表の方に研究委員会で研究を、右側の一番下ですね、していただきます。そして、もちろんここにも管理職の先生も入ってもらっています。その研究された意見を選定委員会というところで協議をしてもらいます。ここにも、もちろん管理職も入っております。その後、採択地区協議会で結果を聞きまして採択をするということになります。この選定委員会と採択地区協議会には保護者の代表の方も入ってもらっております。これは前回ぐらいから入ってもらっています。

それから、採択地区協議会で採択された報告を受けまして、今お話にありました、採択は市町教育委員会で採択するとなっております。ですから、その地区協議会で採択された教科書を採択するとなるわけですが、ここが一番問題が生じ——この前、問題が生じたところで、この採択地区内の武雄市で教科書を決めるというのは、この採択地区協議会で決められたのを追認するような形に結果としてなるわけですね。これは杵西地区でありますので、武雄市、伊万里市、有田町、大町町、江北町、白石町と、そういう形の採択地区協議会であるわけです。そして、県の教育委員会をここに書いてありますのは、もちろん採択したのを報告するということがありますけれども、県は県のほうで左上の教科用図書選定審議会というところで別に調査員を依頼して、そこの審議会で、例えば社会の歴史についてはどういうことが特徴として教科書はあるかというようなことを審議して、その資料が各こちらのほうの研究委

員会にも資料として県のほうの資料も来るということでございます。

それから、特定の研究委員の人の意見に左右されないようにということで、この一番下に書いてある研究委員が研究されている段階で各学校からもそれぞれの教科書についての意見を聴取するようになっておりますので、研究委員会の途中あたりになろうかと思いますが、そういう意見も参考にして研究をされているということでございます。もちろんこれは、無償措置法の法の縛りの中でそういうような経緯があってしているわけでございます。

ちょっとわかりにくいところはありますけれども、そういう経緯で採択しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

わかりました。わかりましたけれども、前も1回質問したことがあるんですね。じゃ、その研究委員さんの報告の内容はどうなんですか、どういう内容が話し合われてこれに決まったんですかというのは公開されているのか、実際そのところで、例えばこんな大切なところを5分じゃい10分、1時間じゃ済まない、何回ぐらいその会議が行われて、その後、子どもたちの教育をされているのか、その辺は公開されているのか。されている、されていないで結構ですので、お伺いしたいと思います。

〔市長「それはせんばいかん」〕

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

（モニター使用）研究委員会の教科書選定について一番注意されるところが、注意しないといけないところが、誰がそれを研究し、選定し、採択しているのかということがわかった場合に、非常にいろんな教科書関係者等のあっせん等があるというようなことで、その個人名は出さないというような形で進められております。そして、調査書については、この研究委員会については原則非公開というふうにしております。その後の選定する段階におきましては、申請があれば報告書を公表するという形になっております。ずっと個人名については非公開と、委員の職名は申請があれば公表するというような形で……（「ここをされているわけですよ」と呼ぶ者あり）ええ。研究委員会は、個人名は非公開……（「内容も非公開」と呼ぶ者あり）調査書も非公開ということですね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、ごめんなさい、不勉強ですみません、これは初めて知りました。それはおかしいで

すよ。やっぱりね、これ我々の公費で大切な教科書を選んでいるわけじゃないですか。そこに非公開なんかあり得ないですよ。しかも議事録も出ない、こんなの密室談合じゃないですか。だから、僕はこういうのはだめだと言っているんですよ。

ですので、メンバーもともかくとして、やっぱりそうじゃないと、何でこのメンバーが入っているんだ、あるいは入っていないんだというのは誰も言えないじゃないですか。議会も言えないじゃないですか。私も知らないですよ。だから、それは改めてくださいよ、教育委員会は。本当に。

その一方で、私はそうは言っても、教科書を熾烈なね、これもある意味、利権ですから、いろんなところに売り込みが来るといのは、それは理解できます。ですが、それによって、じゃ、どうなるのって。いいじゃないですか、売り込みが来て。だから、そういう人をちゃんと信用できない人じゃなくて、信用できる人をやっぱり入れると。僕ね、この中に議員も入ったほうがいいと思いますよ。政治家の政治的意思じゃなくて、皆さんたちは市民の代表なんですよ。僕だって入りたいですよ、この中に。そうじゃないと、こんな、さっきみたいなばかな教科書なんか選びませんよ、本当。

[21番「そうそう」]

ポツダム宣言を完全に無視したなんてあり得ません。

[21番「そう」]

これは僕も大学で歴史、そこを勉強しました。絶対ないですよ。あのときの、僕は戦争を指導した人たちがいいとは言っていないよ。むしろ今の歴史的な価値から見ても、当時から見ても、それはおかしいことをいっぱいやっていますけれども、そこを完全に無視しないうのはないです。事ほどさように教科書というのは、僕もばらばらこの前、質問通告があるので見たけれども、本当にもう恥ずかしくなる内容ばかりですよ。日本人が日本人であることを何でこんな教科書で卑下されなきゃいけないのかって、それは思います。

ですので、どんなに学校の先生、うちの学校の先生たち頑張っているけど、教科書がこうだったら頑張りようがないです、もう。ですので、ここはやっぱり一回精査しますよ。精査します。そうじゃないと、子どもたちがかわいそう。僕らがそうじゃないですか。おかしい教科書で学んで日本という国がどんなにひどかったかと、僕らはそういう教育だったんですよ、僕は。上野先生とかは違いますよ。だから、先生によって例外あるかも——例外というか、僕のほうが例外だったかもしれないですけど、ある先生なんか、日本というのはだめな国なんだと言うから、僕は素直だったんですよ、今も素直ですけど。そしたら、やっぱりそうかなと思いますもん。それだけ教科書とか学校の先生というのは物すごい影響は大きいんですよ。だから、それはやっぱりこの制度そのものがこんなになっているからおかしい教科書だったり、おかしい教え方になったりするわけですよ。ここは正すべきだと思いますので、一回検証します。市長部局でもちゃんと検証します。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

そうなんです。やっぱり子どもを持っている親、そして、子ども自身もどういう過程でこの教科書が選ばれたというのは知る権利があると思うんですね。やっぱりそういうのを、これさっきおっしゃいました調査員、県の教育委員会への調査員による報告。研究のところは全く——ただ、これは形式なんですね。研究会から来たのもう蹴られたことはないんですね。変わったことはないんですよ、ここでひっくり返されたことというのは。ですから、そういう細かい内容がどれぐらいの時間をかけてどれぐらいになったのかというのはやっぱり知りたいと思うので、今後の検討課題の一つとしてぜひ捉えていただきたいと思いますし、やっぱり今こういう御時世ですから、きちんと子どもたちも育てたいし、きちんと国を愛する心、そして、郷土を愛する心というのをきちんと出していただきたい。そういうことを願ひまして、一般質問の最後の——これは終了でしたね、ごめんなさい。

少子化を伴う交通問題、これはちょっともとをただして言えば、みんなのバス、みんなのバスを4年前ちょうどこうやってさせていただいたときに、市長が、当時ですね、ワンマンという言葉がはやっていました。ワンマンバスからみんなのバス、みんなのバスからスクールバスというふうな言葉でされていきました。そのときに、私は父兄直接2名、そして、そのときにメールを2通いただきました。本当に父兄のほうは助かると、うちの地区には子どもが2人しかいない。2人しかいないうちの1人がもう卒業すると、そういうときに子どもをどうやって送ろうかと悩んでいた。ほかの地区もそうです。メールも切々なことを訴えていただきました。みんなのバスの対応とかじゃなくて、そういう少ない地域、もう地区に1人しかいない山間部、離れているところ。議長のところは離れているけど大丈夫だと思うんですけども、やっぱりそういう地区というのが物すごくここ何年かで急激にふえてきました。そういうふうな救済措置、これはひよっとすると、きのう上田議員さんが言っていた部分にも重なるかもしれません。武雄までいつも送らなきゃいけないというのが自分の、地元小・中学校、保育園に送らなきゃいけないというのも同じ考えかもしれませんけれども、ぜひそういうふうな地域で本当に少なくなったところを、いつも親が、おじいちゃんがというふうについていけるかは限りませんので、その辺のところの対応をどのように考えていらっしゃるのか、最後の質問としてお伺いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今でもみんなのバスについては、その地区の話し合いでお子さんを乗せたりというのはあります。ですので、今度、来年の4月から有償化になっていくんですね、そんなにたくさん

はお取りするつもりは全くないんですけれども、そこも地元でよく話してほしいなというふうに思います。地元の中で話してほしいなと。やっぱり足、特に川内ですよね、若木町でいえば。川内で僕も戸別訪問をしていたときに、それ切実にやっぱり訴えられましたもんね。

さっき牟田議員さんがおっしゃったとおり、おじいさんだったんですよ、そのおじいさんがいつも送り迎えしているけれど、やっぱり毎日しんどいと、いつ自分が車に乗れるかどうかかわからないと、非常に無理してやっているというお言葉を承ったときに、これはやっぱり行政は何とかせんといかんなどということは思いました。ただし、これがわあって、本当にやりたいんですけど、わあって市内に広がると、それはそれでこれも税金で、納税者の税金で行われていますので、やっぱり極めて例外的なこととして僕は必要だと思っています。そういう意味でいうと、若木でいうと、やっぱり菅牟田の先のところとか川内というのは、その対象に当たりますし、例えば杉原議長さんの船ノ原とか、あとは、あそこの、誰でしたっけ、山口昌宏さんです、ちょっと忘れていました。昌宏さんのところの楠峯とか、あるいは黒岩幸生さんの先の例えば杉岳とかというところはその部分に値すると思います。ですので、武雄市でいったら200平方キロメートルありますけれども、その外円部ですよね、一番外円部の部分は、それはやっぱりちゃんとケアしなきゃいけないと思っていますので、まず私が若木町に期待をしているのは、そのモデル、その地区の話し合いでどういうふうにするというそのモデルをやっぱりつくってほしいなというのを思っていますので、そういう意味での牟田議員さん、松尾陽輔議員さんには期待をしております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

21番牟田議員

○21番（牟田勝浩君）〔登壇〕

ありがとうございました。

いよいよこれ最後のページ、これは大楠公園ですね。大楠公園、これは横から見ると羊のように見えます。幸せを運ぶ3,000年の羊で、これからも3,000年以上この武雄市がいいように続きますように願ひまして、一般質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（杉原豊喜君）

以上で21番牟田議員の質問を終了させていただきます。